

けいじばん

○次回活動日のご案内；10月9日（月曜日、祭日）9：40 森林館駐車場集合、主な活動メニューは伐採木の選木、きのこ班、植物班、栽培きのこ班、木工班、シカ班などの班活動。10月29日きのこ観察会、11月19日安全研修会などの打合せ。携帯品：弁当・飲み物・雨具。天気良ければお椀。

○きのこ観察会のご案内；10月29日（日曜日）きのこ研究に造詣の深い吹春俊光氏（千葉菌類談話会、県中央博物館植物学研究所）を豊英島にお招きし、きのこ観察・勉強会を行います。こぞってご参加下さい。詳細は10月9日活動日にお知らせします。

○研修会受講のお勧め；ちば里山センター研修日程及び森林研究センター公開講座の案内チラシを8月配信千年の森便り35号誌3・4頁に添付しました。10月21日（土曜日）里山センター（袖ヶ浦市長浦）で実施される「安全の基礎知識」は森の活動参加者に特に有益な研修です。受講をお勧めします。参加費無料。問い合わせは上記アドレスへ。

○ちば里山センターホームページ；研修やイベントその他有益な情報がいっぱいです。同センター発行の里山新聞は当会では豊英島の活動参加者には現地配布しますが、経費節減のため郵送しません。「ちば里山センター」と入力し、ホームページで閲覧下さい。

かつどうのきろく

9月17日（日）曇後雨、参加会員21名、体験参加1名

○相対照度測定；福島リーダー指導・指示のもと、4班編成で相対照度の測定。測定地点は6月調査で調査空白域となっていた巨木林、きのこホダ場、ほこら山及びスハマソウの北斜面。斜面へのトランシーバー交信障害や不慣れによる小ミスなど一時あったが、照度測定には最適の天候に恵まれ、1時間余で9地点の測定。測定結果は次頁。

☆北急斜面を降り測定担当した高塚さんの感想「メガネをかけずに測定していたので‘明るすぎる、変ダナー’と思っていた。良く見たら、小数点を見逃していたのでした。思っていた通り、照度は全て500ルクス以下、雑草もほとんど育っていない。こんなに暗くてはスハマソウもそのうち無くなってしまわないかと心配です。」

○木工班；島内4地点に案内標示板を設置しました。伐採したスギやモミなどを利用して杭を作り、道案内を標示した板を取り付けました。出来栄はなかなかのもの。今回は巨木林の周りに設置しましたが今後は地名標示など設置場所を増やしてはどうかと思っています。



案内標識板

○植物班；観察路沿いに花と実の植物を探し歩く。僅かにアキノタムラソウ、コウヤボウキ、シラヤマギクなどがひっそりと咲くのみ。「豊英島は花も実も少ない」と不平が出始めた矢先に大発見。ほこら山方面から千年広場に向う観察路脇にアキノギンリョウソウ群落、第一発見者は臼井孝子さん、同定は当日体験参加の栗山忠俊氏。



アキノギンリョウソウ 9/17



蒴果 3/19

アキノギンリョウソウ；別名ギンリョウソウモドキ、イチヤクソウ科シャクジョウソウ属（千葉県レッドデータブックD：一般保護植物）木陰に群生する光合成を行わない腐生植物、葉緑素が全くないため、全体が白色。花は後に上向きになり、茶褐色に変色して、春まで残る。本年3月19日スハマソウ撮影時北斜面で高塚会員撮影、千年の森便り28号誌掲載の「これ何？」はアキノギンリョウソウの蒴果、アキノギンリョウソウがスハマソウ斜面にも生きていた証拠。

○コナラ林更新調査；9月調査の範囲では、調査対象の伐り株の萌芽の成長は全般に不調（1株は全萌芽枯死）、実生の発育状況も依然よくない。実生苗をポットで育てるなどの対応が必要かもしれない。

○きのこ班；この日のきのこの目玉は何と言ってもアカヤマドリに尽きます。傘の裏の管孔も虫に食べられた様子もなく美しいものでした。ホウキタケも何種類もありました。これから気温が少しずつ下がり10月にはサクラシメジ、ウラベニホテイシメジが出てきます。10月のきのこ調査と観察会に乞うご期待。



アカヤマドリタケ

○島を疾走するニホンシカ3頭を目撃 ☆第一発見者森会員談「11時半過ぎ、きのこ撮影のためデジカメを持って、ほこら山近くにきた時突然山の湖側より3頭のシカが降りてきた。30メートル位前方に。こげ茶色でいずれも尾はなく尻は白、2頭は広場方向へ、やや小さいもう1頭は、来た方向（湖側）へ一瞬のうちに走り去った。いずれも逃げ足速く写真に収めることは出来なかった。」続いて2頭は広場周りを地響き立てて疾走し、広場にいた多くの会員が目撃。突然の出来事に誰一人シャッターを押せなかったは残念。島で3頭同時に確認したのは始めてです。

○栽培きのこ班；この日収穫はなく、今後の予定を、次のように打ち合わせ。①キノコの収量調査、10月からは収穫量が多くなる、3・4班体制で調査する。②ほた場の現状把握、場所を確認し、表示がバラバラになっているので、統一したLot NOを付ける。③ほた木の遮光、落葉すると日当たりが良くなる、魚網ネットを利用して遮光する。④キノコの新規栽培（全体作業）；玉切り・植菌・設置・菌の種類を検討。⑤キノコの栽培農家見学。

○ミーティング；昼過ぎから小雨のため県民の森事務所に引揚げて遅い昼食の後、当日実施した相対照度測定結果を下記のように要約して福島リーダーから解説、続いて各班のリーダーから活動報告と意見交換が行われた。

雨・台風予報にもかかわらず、多くの会員の参加があり、昼過ぎまでの短い時間ながら、各グループ別に、多彩な活動を展開し、雨のお蔭でゆっくり昼食、ミーティングでは他グループ活動についても皆で理解を深め合うことが出来、有意義な充実の一日でした。参加会員の皆様お疲れ様でした。

豊英島相対照度調査結果

調査日時：2006. 6. 18. 10:30～11:30、9. 17. 10:00～11:00、天候：曇り
 使用機材：照度計（トプコン IM-3、トランシーバー）、開放地：橋の上、林内：18箇所（各点で10回ずつ測定）

植物の成長にとって重要な林内の光環境は、一般的に相対照度（林内の照度／開放地の照度）で表します。相対照度が5%以下では林床植生はほとんどなくなり、多くの林床植物を導入し生物多様性を豊かにするためには30%程度の明るさが必要となります。ただし、注意しなければいけないのは、暗い場所でなければ他の植物に被圧され生きていけない植物もあるということです。光環境の管理は、保全したい植物がどの程度の明るさを好むかということを考える必要があります。

島内で最も明るかったのは、千年広場とコナラ更新林で30%を越えていました。次に明るいのは千年広場近くのほだ場で13%、他の測定地はすべて10%未満と暗くなっていました。

今回測定したスハマソウのある北斜面、尾根、ほこら山は、高木層に常緑広葉樹が多く相対照度は全体に低めでした。また、巨木林は5～10%程度で、着葉期の落葉広葉樹林としてはやや暗めでした。巨木林の林床に多様な植物を導入しようとする場合は、高木層の間伐により林内の光環境を改善する必要があります。

